

地域の 交通手段を 守り育てよう



公共交通機関に親んでもらおうと、電車やバスなどの魅力を体感できる「公共交通フェスティバル＆『バスの日』記念イベント」が初めて開催され、多くの親子連れでにぎわいました。昭和期に運行していたボ

ンネットバスや岐阜市内を走っているハイブリットバス、ミニSLの試乗、長良川鉄道の旅などが人気を集めました。公共交通の役割を市民の皆さんとともに考え、利用しやすい交通手段となることを目指します。

あんな事、こんな事



妊婦の大変さを実感

洞戸中学校生徒が、子育て中の親の思いや育児体験談を聞いて、赤ちゃんとふれあいながら、自分が育った過程を振り返り、親への感謝の気持ちと命の大切さについて学びました。実際の妊婦さんのお腹を触らせてもらう貴重な体験をし、日常生活ではあまり接することのない赤ちゃんの抱き方などに戸惑いながらも、いかに喜んでもらえるか工夫しながらあやしていました。

夜長のひとときをゆったりと

秋の夜長を野外での音楽鑑賞で楽しむ「関市名月の夕べ」が関市文化会館・市民広場で開かれました。バイオリンとピアノミニコンサートやピアノ演奏、ソプラノ独唱、外国人によるお茶席コーナー、文芸大会の入選作品発表など、さまざまな催しで観客を魅了しました。会場内に設置されたあんどんでやさしい灯りに包まれながら、幻想的な雰囲気の中で演奏に酔いしれました。





おじいちゃん すげえな

祖父母・親・子どもの三世代が一緒に活動し、互いの交流を深め理解し合う「三世代ふれあい広場」が富岡小学校で開かれ、多くの児童らが昔ながらの遊びなどで楽しみました。竹細工、絵手紙、お手玉、壁掛けフラワーを地域の老人クラブのリーダーの指導を受けて、親子でコツを教え合いながら熱心に作り上げました。祖父母世代から伝統、技術、知恵を学びました。

ご利益がありますように

美濃三不動の1つである迫間不動尊で、毎年9月の第4日曜日に営まれる秋季大祭が開かれ、参詣者の願いが書かれた護摩木約1,200本を山伏姿の修験者が次々と火にくべ、祈願しました。供養では、境内の四方に弓矢を放ったり、刀剣で空を切ったりするなど厄を払って清め、ヒノキの葉の山にたいまつで着火。白い煙と大きな炎をあげる火中に「無病息災」「商売繁盛」の願いを込めていました。

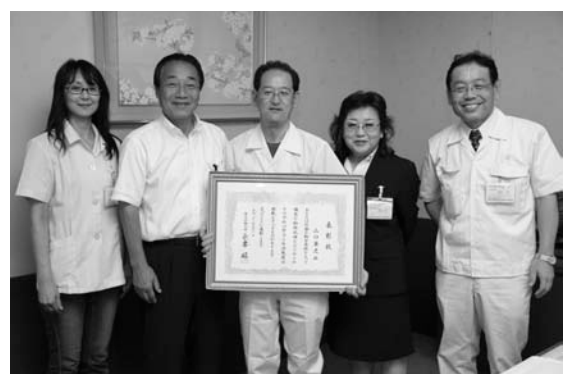


56年の歴史に幕

市の行政組織の見直しに伴い、9月30日をもって東部支所が廃止となり、市長や地元富野地区住民らが閉所式に出席し、別れを惜しみました。支所開設以来、富野地区の文化と歴史を見守ってきた東部支所。地域に密着した支所として愛され利用されたことを胸に、今後は富野ふれあいセンターを中心に、サービスの維持に努めます。

障がいのある人の励みに

職業人として模範的な業績のある障がい者をたたえる「優秀勤労障害者厚生労働大臣表彰」を受賞した山口兼之さん(平賀町)が尾藤市長にその喜びの報告をしました。市内の会社に24年間勤務している山口さんは、手話で会話しながら卓越した技術で仕事をこなし、社員からの信頼を受けています。山口さんは「仕事がとても楽しい」と手話で話していました。



こぼれ話



10月15日、関市は60歳の誕生日を迎えました。今年は市制施行されて60周年の節目の年で、人生に例えると還暦です。市として一層の活力を生み出す再出発の時といえると思います。

今回、60周年記念誌を制作(関係者に配布)したのですが、これに携わるにあたり、過去の広報紙を見る機会が多くなりました。改めて振り返ると、写真や記事からこれまでのわがまちの歩みを垣間見ることができ、歴史の重さをひしひしと感じました。一番

驚いたのは10年前、当時の中学生による「50年後の未来」について書いた作文の掲載で、この生徒が現在市役所に入庁し、行政に携わっているということでした。時の流れを実感したとともに、今後学校などへ取材に行き、話した児童や生徒と将来、仕事でかかわったりすることがあるのかなと考え、それだけでなんだか楽しくなってきました。これまでの広報担当者の熱意を受け継ぎ、重みも感じながら、情報発信とともに将来、当時の思い出がよみがえってくるような広報紙づくりを目指したいと思います。